

気高町・鹿野町における公共交通の現状と課題について

1 地域における公共交通の課題

(1) これまでも生活交通の危機に直面

- 気高循環バスは運転者不足の深刻化に伴い、令和元年10月から鹿野町の貨物運送会社が市と連携協定を結び、現在は全便の運行を担っています。
- 浜村青谷線は、採算性の悪化や運転者不足・運転者の高齢化により令和2年3月に乗合タクシーとしての運行を廃止し、現在は市の直営路線として存続しています。
- 令和3年3月をもって、地域のタクシー事業所（日本交通浜村営業所）が廃止となり、気高・鹿野エリア一体ではタクシーの利用が困難な環境となっています。

(2) 既存路線の利用者は減少傾向で行政支出も高止まり

- 地域の生活交通を将来に渡って残していく必要があるものの、依然として市有償バスの利用者は減少傾向で、コロナ禍や運行事業者の変更等を経て、行政支出は高止まりしています。
- 今後、このような状況が続けば、更なる効率化を迫られ、サービス水準が低下し、利用者の減少が続くという悪循環に陥りかねない状況です。
- 市の支出額（年間）は23,707千円で増加傾向である。

市が運行数有償バスの見直し基準

基準	数値設定
1便当たりの利用者数	2.0人以上であること
利用者一人当たりの市の補助金額	1,000円未満であること

表 鳥取市有償バス利用者数と支出額(R2年)

路線名	1便あたり利用者数	市支出額
気高循環バス	2.75人/便	23,707千円
浜村・青谷線	1.33人/便	1,577千円

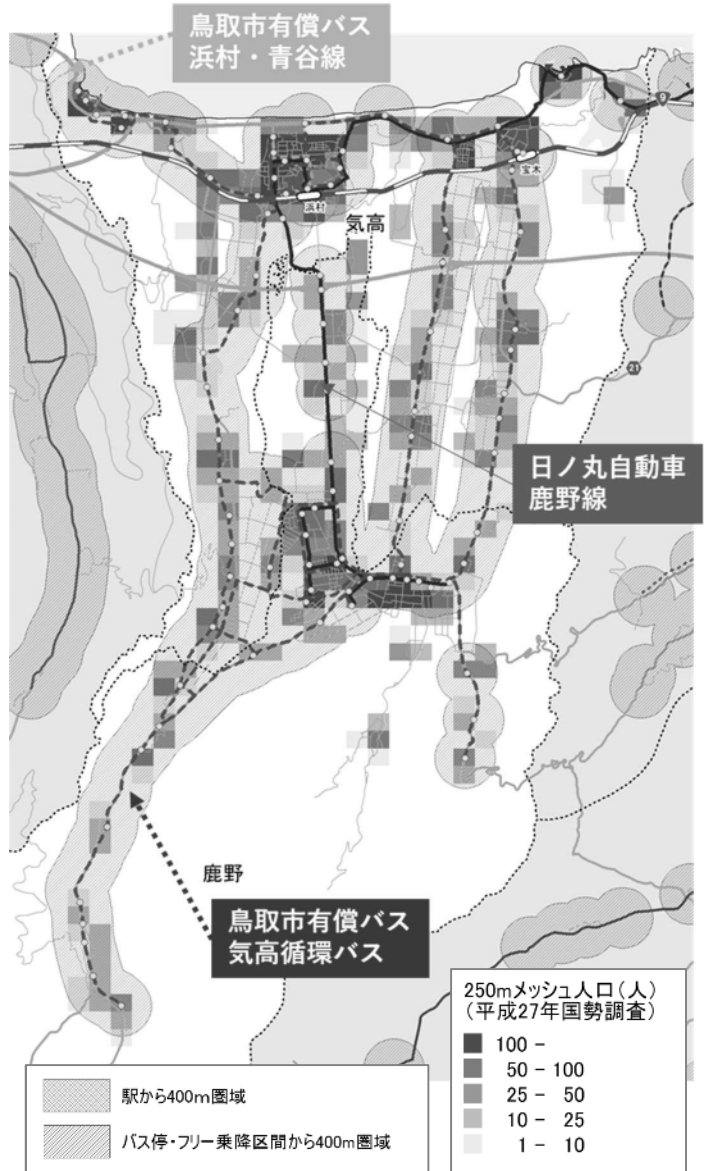


図 地域の生活交通とバス停400m圏域人口

(3) 生活交通を利用しにくい地域が点在

- 現在、バスの運行ルートから離れた地域・集落ではバスを利用するため、400m以上の距離を歩く必要があります。

<バス停から離れた集落が存在する地域>

気高町：会下、下原、日光、奥沢見、上光等の一部 鹿野町：中園、宮方、乙亥正、岡木、寺内、水谷等の一部

2 アンケート調査結果

地域の移動実態や公共交通の利用実態、移動手段確保における意向を把握し、今後の交通手段確保策の検討や気高循環バス見直しに向けた基礎資料を得るため、鳥取市気高町・鹿野町の全世帯を対象にアンケート調査を実施しました。(アンケート調査結果から一部を抜粋してご報告します)

(1) 調査の概要

調査対象	鳥取市気高町(2,551世帯)、鹿野町(1,105世帯)の全世帯 計3,656世帯の各世帯につき3部ずつ調査票を配布
調査方法	総合支所や自治会等を介して配布 全集落から回収(実施期間:令和3年11月~12月)
回収状況 (世帯)	全体・・・回収世帯2,146世帯(回収率:58.7%) 気高町・・・回収世帯1,458世帯(回収率:57.2%) 鹿野町・・・回収世帯688世帯(回収率:62.3%) 1381件

(2) 回答者の属性

① 答者の年齢層

- 鹿野町全回答者のおよそ65.5%が60歳以上でした。また、全体の30.8%が一人暮らし若しくは夫婦のみの世帯でした。
- 回答者のうち17%の人が、ひとりでの外出に身体の負担を感じる、若しくは支援がないと難しいと答えています。

ひとりでの外出の状況

特に問題ない	1,129
身体の負担を感じる	114
支援がないと難しい	121
未記入	17

② 運転免許証所持の有無

- 回答者のおよそ79.2%が自動車の運転免許証を持っていますが、約18.9%の人は現在自動車運転免許証を持っていない状態です。
- 高齢化が進むにつれ、今後運転免許証返納者が増えることが予想されます。

運転免許証の有無

持っている	1094
自動二輪・原付免許のみ持っている	13
持っていたが返納している	93
もともと運転免許証を持っていない	168
未記入	13

③ 運転免許証の保有や返納の意向

- アンケート時点では71.3%ができる限り運転を続けたいと答えています。運転に不安を感じている、生活に欠かせないために運転免許証を返納できないといった声もあります。

運転免許証の保有や返納の意向

今後もできる限り自分で運転を続けたい	985
いには運転免許用を返納するつもりはないが、運転に不安を感じている	54
運転免許証を返納したいが、生活に欠かせないため返納できない	39
近々運転免許証を返納するつもり	26
元々運転免許証を持っていない	168
未記入	109

④ 送迎の状況

- 鹿野町では、同居家族が送迎している状況がとても多いですが、送迎してくれる人がいないという人も160人います。
- また、親戚や近所の人に頼んで出かけている状況も見られます。

送迎の状況

同居家族が送迎してくれる	659
同居していない家族や親せきが送迎してくれる	64
近くに住む知り合いなどが送迎してくれる	10
送迎してくれる人はいない	160
未記入	488

(3) 移動の目的地(町別)

- 多くの人がエスマート（浜村）、原田フードセンター、イオンを買い物先として挙げ、食料品の購入に出かける頻度が多くなっています。
- また、通院先・医療機関については「乾医院」を通院先として選択されている方が多い状況ですが、中央病院や鳥取赤十字病院など、総合病院に通院する方も一定数あります。

表口よく行く医療機関・通院先

通院先	鹿野町
乾医院	326
鹿野温泉病院	128
県立中央病院	82
稲垣歯科医院	42
よねだクリニック	36
鳥取赤十字病院	35
鳥取市立病院	32
鳥取生協病院	28
すどう歯科医院	19
かわぐちクリニック	13
北浜歯科クリニック	13
鳥取市	13
湖山	12
尾崎病院	11
鳥取医療センター	10
さとに田園クリニック	9
浜村診療所	7
いなだ歯科医院	6
もとむら眼科医院	6
よしだ内科医院	4
明穂整形外科	3
上山整形外科医院	3
よろずクリニック	3
太田原医院	1
田中医院	1

表口よく行く買い物先・商業施設

買い物先	鹿野町	
エスマート	浜村店	321
	店舗不明	179
	湖山店	9
	徳尾店	4
	打吹店	1
ウェルネス	気高店	72
	店舗不明	63
	片原店	1
イオン	鳥取北店	117
	店舗不明	5
	鳥取店	1
サンマート	湖山店	49
	店舗不明	41
	青谷店	5
	西店	8
トライアル	店舗不明	59
	鳥取千代木	31
	叶店	3
原田フードセンター	164	
マルイ	湖山店	33
	店舗不明	21
	宮長店	1
	国府店	1
	薬師町店	1
ジュンテンド	店舗不明	27
	浜村店	8
カインズ	カインズFC	55
	昭島店	1
ラ・ムー	店舗不明	26
	鳥取店	7
	鳥取東店	2

(4) バス利用の状況(鹿野)

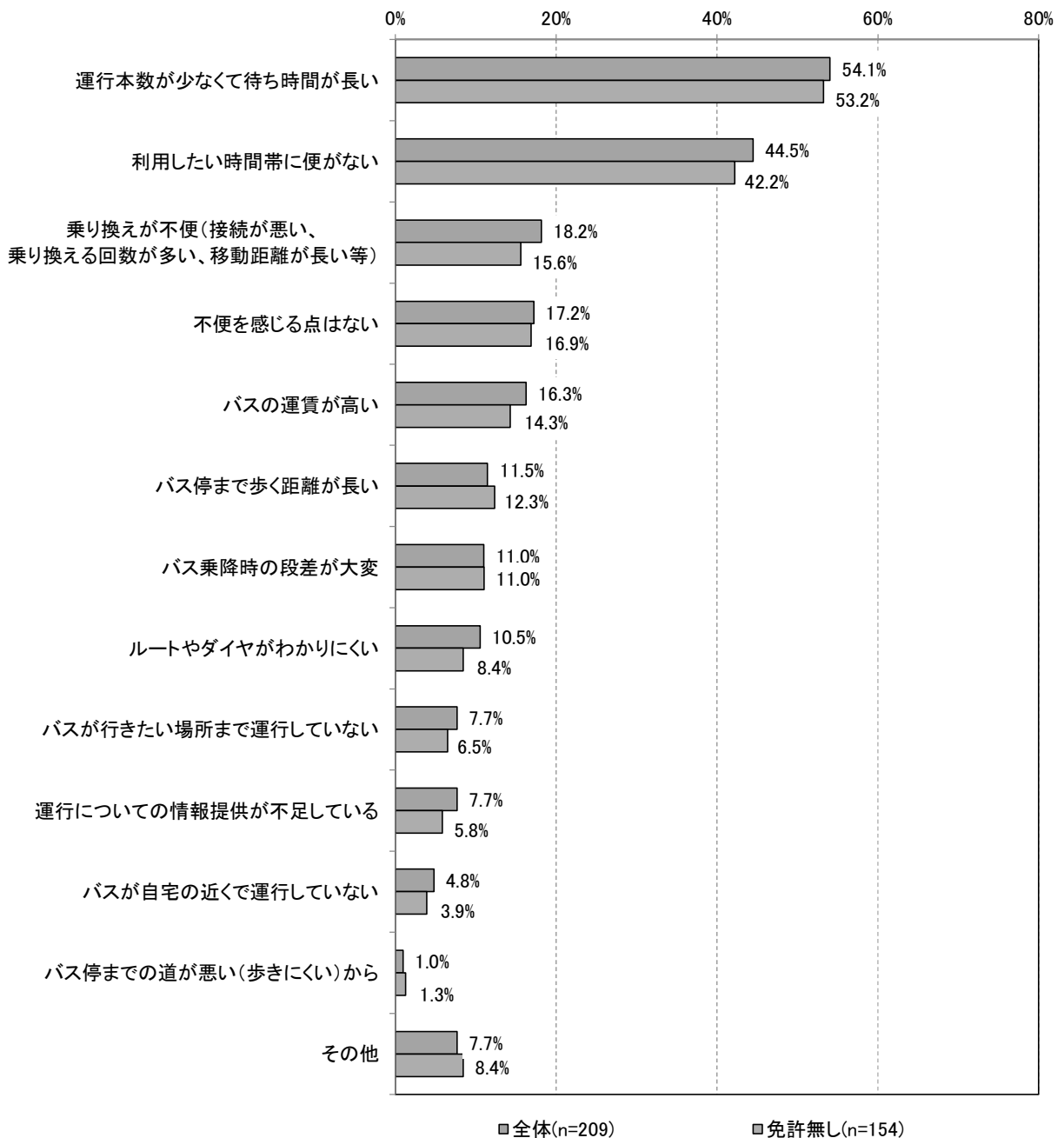
- 割合に大きな違いは見られませんが、日の丸バスが運行している勝谷地区が比較的高くなっています。
- 本アンケート調査の回答者は児童・生徒の回答が少なく、高齢者に偏っている点を留意する必要があります

表 鹿野町でバスを利用している人

地区	アンケート回答者数(人)	普段バスを利用している(人)	地区の中で普段バスを利用している人の割合
鹿野	578	33	5.7%
勝谷	502	44	8.8%
小鷲河	256	19	7.4%
不明	45	5	11.1%
計	1,381	101	7.3%

(5) バスに対して不便を感じる点(気高・鹿野)

- バスに対して不便を感じる点としては「運行本数が少なくて待ち時間が長い」「利用したい時間に便がない」ことが比較的多く挙げられました。



(6) バスを利用しない理由(気高・鹿野)

- バスを利用しない理由として、回答者全体では「車を使って移動しているから」が最も多く挙げられました。
- 一方で、運転免許証を持っていない人に絞ると、「家族や知人の送迎で移動しているから」が最も多く、次いで「自転車や徒歩で目的地まで移動できるから」「利用したい時間に便がないから」「運行本数が少なく待ち時間が長いから」でまとまった回答が見られます。
- バスを利用しない理由が改善された場合、免許を持っていない人の15%が「利用したい」と回答しています。

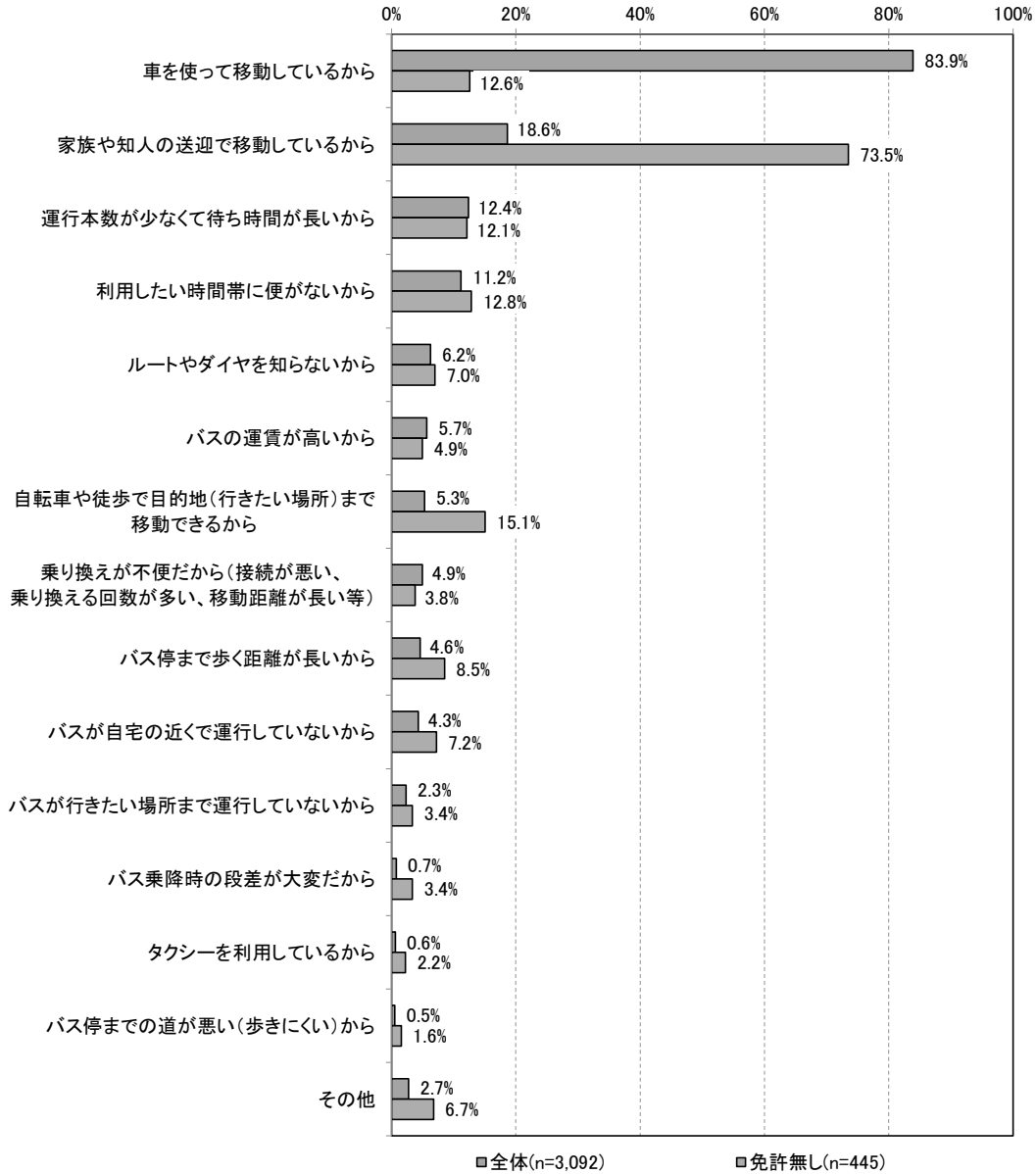


図 バスを利用しない理由(非バス利用者のみ回答)

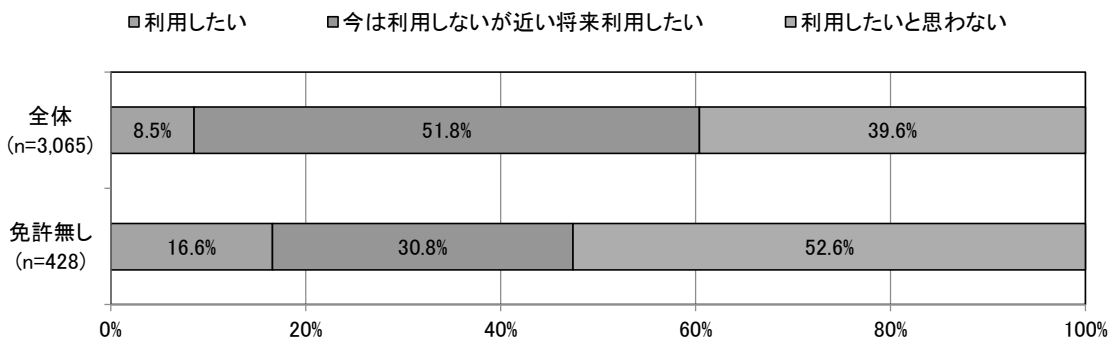


図 利用しない理由が改善された場合のバスの利用意向

(7) 新たな移動手段(仮)に関する利用の意向(気高・鹿野)

- 仮に、気高循環バスが自宅の近くまで迎えに行く等、今のバスよりサービスレベルが高い乗合タクシーに変わった場合の利用意向を調査しました。
- 各地区で利用の意向が見られ、小鷲河地区で特に利用を希望する割合が高くなっています。
- 気高・鹿野併せて約 350 人利用したいという回答でしたが、現時点での割合はそれほど高くない状況です。

表 気高町・鹿野町で新たな移動手段ができた場合、利用意向がある人

地区	アンケート回答者数(人)	利便性の高い乗合タクシーを利用したい人(人)	地区の中で普段バスを利用したい人の割合
酒津	165	12	7.3%
瑞穂	391	35	9.0%
逢坂	397	35	8.8%
浜村	1,258	107	8.5%
宝木	577	48	8.3%
不明	148	14	9.5%
計	2,936	251	8.5%

地区	アンケート回答者数(人)	利便性の高い乗合タクシーを利用したい人(人)	地区の中で普段バスを利用したい人の割合
鹿野	578	35	6.1%
勝谷	502	40	8.0%
小鷲河	256	30	11.7%
不明	45	4	8.9%
計	1,381	109	7.9%

3 調査結果のまとめ・今後の取組方針

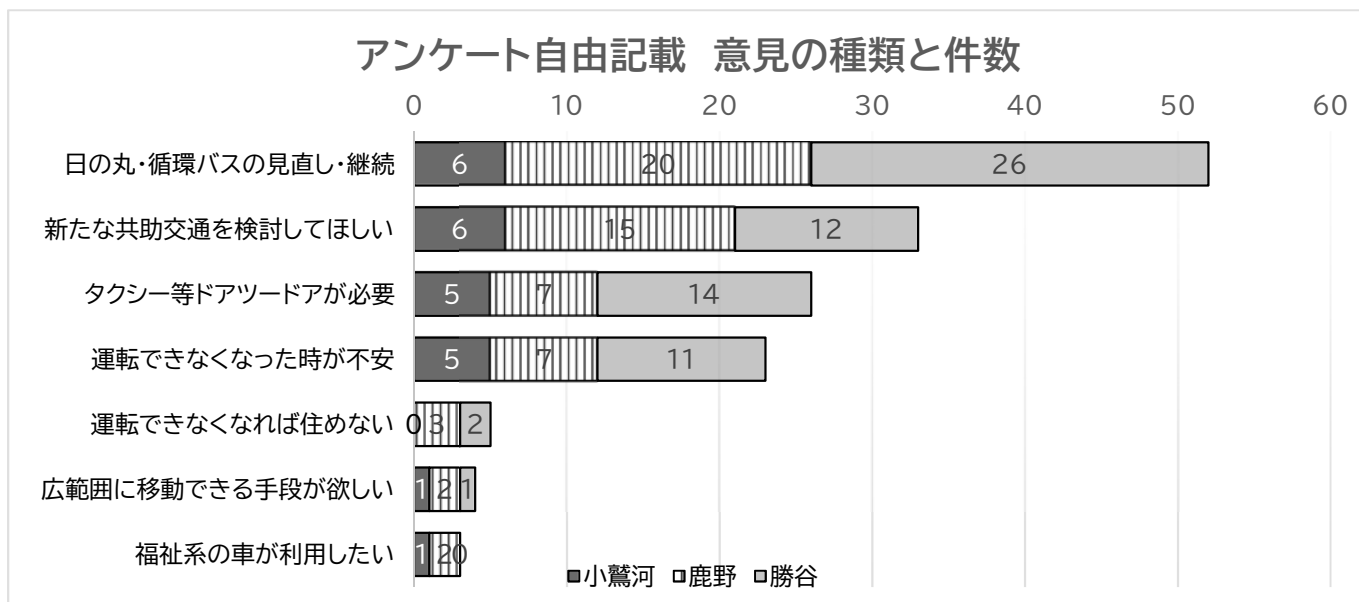
生活交通の現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 気高町・鹿野町の生活交通は運転者不足、タクシー営業所の撤退等、これまでも生活交通の危機に直面してきました。 ● 一方で、利用者の減少や市支出額の高止まりが続いており、特に児童・生徒が利用する時間以外のバス利用が少ない状況です。
移動に困っている人 移動の状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 気高循環バス等のバス路線は気高町・鹿野町の広範囲で運行していますが、地域や集落によってはバス停まで距離が離れています。 ● 気高町・鹿野町の各地区で家族に送迎も頼めず、自由に使える車がない人(比較的移動環境が不便な人)が一定数見られました。 ● 主な移動の目的は買い物と通院で、買い物は浜村、通院は各町内の医療機関と町によって目的地(特性)の違いが見られます。
バスサービスの課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 「運行本数」「利用したい時間」の2点を多くのバス利用者が改善してほしい点として挙げられています。 ● バスを利用しない理由として、免許を持っていない人の多くは「送迎」を理由しており、多くの高齢者が家族や知人の送迎に依存している可能性があります。
新たな移動手段確保策に対する意向	<ul style="list-style-type: none"> ● バスよりサービスレベルの高い乗合タクシーが運行した場合、各地域で一定の利用意向が見られました。

★乗合タクシー実証実験(令和4年10月から令和5年9月末まで)★

運行範囲:	勝谷、逢坂、浜村エリア → 鹿野、気高エリア全域に拡大
運行日・時間:	平日 9:00~16:00
運賃	月額3,700円
その他	事前登録が必要、乗車時には1時間前までに電話で予約、予約状況によっては乗合になり、到着時間が遅れる場合がある。
運行事業者	サービスタクシー(事業費鳥取市補助)

利用者数が伸びず
事業成立に至ら
なかった。
目標:100人/月
実績:12人/月

アンケート自由記載 意見の種類と件数



《所感》

- 全国的な自家用車の普及による乗車数の減少や、労働者人口減少等による運転手不足など、地域を支えてきた公共交通(日の丸バス・日交タクシー)の運行は縮小しており、維持するために市が多くの補助金を支出している状況にある。
- 現時点では高齢であっても多くの方が自動車を所有し運転を行っており困っている人の割合は少ないが、家族や友人・知人に頼んで生活を維持している人も一定数いる。
- 住民の中には、自家用車がなければ自由に通院や買い物、レジャーに出かけられないため高齢になっても免許返納できないといった声がある。
- 気高循環バスの運行においては、JRとのアクセスや児童生徒の登校時間を考慮し、鹿野・気高地域の生活交通として安心して利用していただけるようダイヤを組んでいるが、広いエリアを2台で運行するには限りがあり、常に要望が届いているが個々のニーズに応えることができない。
- また、高齢になると循環バスの通る路線まで歩くことが困難になり、タクシーのようなドアツードアで移動できるシステムを求める人も多い。高齢化に伴い今後ニーズは増加すると思われる。
- 住民の中には、原状では運転免許証を返納した場合、この地での生活がままならず、転居するしかないといった声もある。
- 鳥取市内でも南地域や旧市内の一部では、住民が運営する「空白地有償運送」が数年前から始まっており、全国各地で新たな交通手段を模索し実現化している。
- 生活交通は地域の動脈であり、地域コミュニティを維持し、安心してこの地に暮らしていくためには市民とともに地域のニーズに即した生活交通を検討する必要がある。

■有償運送（道路運送法）と無償運送（許可不要）の一覧

運送料	法令上の呼び方	道路運送法	カテゴリ例		例	
有償	旅客自動車運送事業	第3条	一般乗合旅客自動車運送事業		路線バス、乗合タクシー	
			一般貸切旅客自動車運送事業		貸し切りの観光バス	
			一般乗用旅客自動車運送事業		タクシー	
	自家用有償旅客運送	第78条2	福祉有償運送	市町村運営	-	
				団体運営	鳥取福祉会、NPOまーる 等	
			交通空白地有償運送	市町村運営	気高循環バス・青谷バス ※鳥取市が事業者に業務委託	
			地域団体運営	らっちゃんバス（福部）・さじ未来号（佐治） ふるさとバス（未恒）・大和ふれあいタクシー（大和） さんき楽楽バス（散岐）・いきいき社バス（用瀬） いきいき国英コミュニティバス（国英） ※鳥取市が位置付けている共助交通（7箇所） （鳥取市交通空白地有償運送支援事業補助金交付 補助率10/10）		
自家用車活用事業	第78条3	ライドシェア		県主体でねんりんピック時に開催検討中		
無償	（特になし）	許可・登録 不要	-		地縁団体（自治会、町内会等）主体で行う運送サービス、 ツアー等（スキー場など）の送迎等 【例】山紫苑送迎バス・鳥の演劇祭の自家用車による送迎 【自家用車使用】 湯梨浜町原・琴浦町徳万 【専用車使用】 倉吉市小鴨、小田東・米子市永江・大山町大山、光徳 ※鳥取市は補助制度等なし	

共助と共助交通について

■そもそも「共助」とは何か？

4つの「助」 自助・互助・共助・公助

生活するなかで起こる問題を人との関わり合いによって解決する手段のこと

	問題解決の方法	防災	交通	移動の場合の価値観
自助	自分自身の能力で	食料や燃料の備蓄、防災用品準備など	自家用車の運転	いつでも、好きな時に
互助	個人的な関係性で	近隣住民同士の日々の声掛け、避難の手助け	知人・友人・近隣住民の車に同乗	お互い様、思いやり、親切
共助	問題を共有する集団が仕組みの下で	支え合いマップの作製、避難所の運営	コミュニティ・カーシェアリングなど	安心、元気になる、楽しい
公助	公的機関が法や制度の下で	救助、災害支援、災害派遣	公共交通、コミュニティバス、デマンドタクシーなど	正確に、確実に、安全に

4つの「助」は、それぞれに価値観が異なり、互いに補完し合う関係性にある。防災では4つの「助」のバランスが取れているが、移動では「自助」と「公助」に偏っている。

「共助」とは
同じ問題を共有する人が集まり、仕組みのもとで問題解決すること。

■移動の共助「共助交通」

- 共助交通には「有償」と「無償」の2種類がある。
- 有償、無償の違いは、実費以外の運賃を取れるかどうか。
- ① **有償**：公共交通空白地有償運送という法令に基づく運送（気高循環バス）
利用者から実費以外の運賃が取れる。
- ② **無償**：法令に基づくものではなく自家用車または専用車による運送
利用者から実費以外の運賃が取れない。

※実費：燃料代、駐車場代、道路通行料

※実費以外：運転報酬、自動車任意保険料等

■無償の共助交通の特徴

- 道路運送法の許可・登録が不要。法に基づく名称等もなし。
- 実費（燃料代、駐車場代、道路通行料）以外の運賃が取れない。
 - ・ドライバーの運転報酬
 - ・使う車両に掛ける自動車任意保険料

} どちらも実費の対象外



利用者から運賃として徴収できない！

●無償の共助交通を行うために二つの方法がある（使用する車両の違い）

A 自家用車を使用する場合

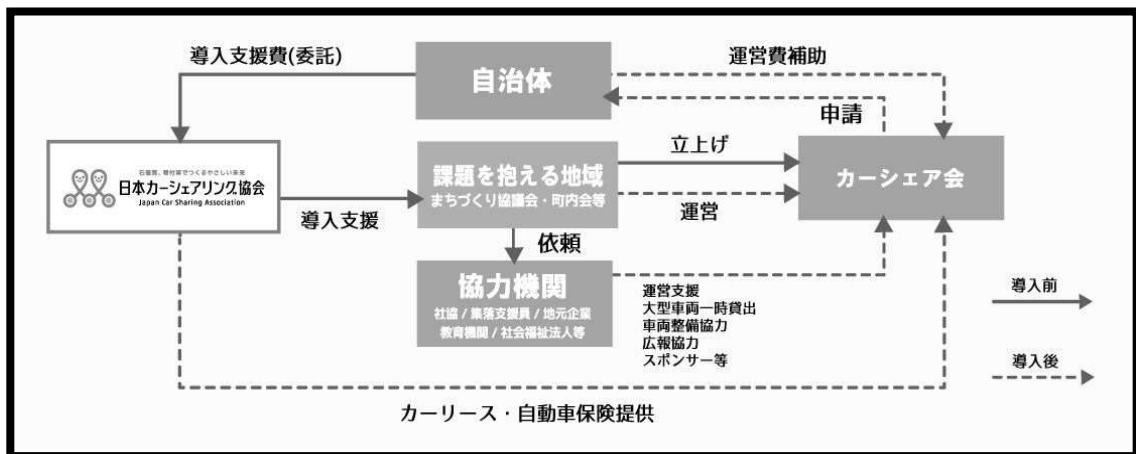
- ・始めやすいが、続けにくい。
- ・口コミで徐々に参加者と利用者が増えてくる。
- ・続けるために自動車保険料に対する公的な補助が必要。

※自家用車を使用した共助交通に対する従量課金制の自動車任意保険（損保ジャパン）

		基本プラン	ライトプラン
補償	対人賠償責任保険	無制限	無制限
	対物賠償責任保険	無制限	無制限
	対物全損時修理差額費用特約	○	○
	人身傷害特約	3,000万円	×
	入通院定額給付金：10万円	×	×
	自損事故傷害特約	×	○
	車両保険	○	×
保険料	1台・稼働日1日あたり	1,100円～	400円

B 専用車を使用する場合（コミュニティ・カーシェアリング）

- ・主旨や仕組みに合意した人が参加する地域のコミュニティ活動。
仕組みの開発元：一般社団法人日本カーシェアリング協会
⇒東日本大震災後、石巻市から始まった活動で全国的に導入が広がっている。
- ・「移動支援」ではなく「地域で助け合う」という考え方。
- ・専用車の自動車保険は、活動の経費の一部として扱う。
- ・積立金、利用方法、運営方針、ルールなどは会員が話し合いで決める。



※現在、無償の共助交通に対する鳥取市の補助等はなし

★共助交通には有償と無償の2種類があり、有償は法に基づき運賃が取れる。
無償は法に縛られないが運賃が取れない。

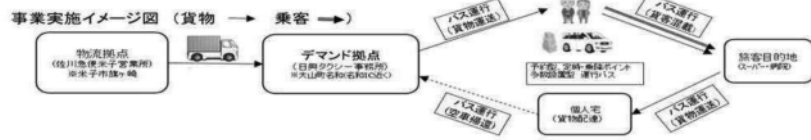
★無償の共助交通は公共交通ではなく、共助サークル活動
無理をしない範囲、楽しみながら、工夫や試行錯誤しながら続ける。

中山間地域における交通体系再構築の事例①

特に中山間地域において路線バスの縮小・タクシーの撤退などが発生し、住民の移動手段の確保に課題がでており、県内市町村では新たな交通体系の検討・導入を進めている。

【大山町】 町営デマンドバスによる宅配貨物の貨客混載

- 大山町ではH24.4に町営デマンドバスを導入。人口減少で利用者が減少する中、多角化で持続可能性を高めるため、佐川急便と連携して貨客混載運行を開始（R2.11実証運行を実施し、R3.4本格運行）
- 行政が運行する交通空白地有償運送で、個人宅まで配送する貨客混載は全国発!!
- 貨物配送（R4、2.2万個/年）で貨物収入は約450万円となり、旅客収入170万円の約2.6倍となっている。



【智頭町】 モニター付き端末で高齢者が使い易いAIオンデマンドタクシー（R5.4〜）

- 町内タクシー営業所撤退に伴い、町営バスから住民ドライバーの自家用車による共助交通（交通空白地有償運送）に見直し
⇒ R2から町内一部で実証運行を行い、R5.4〜本格運行
- 防災情報等の告知に使われる各戸配備のモニター付き端末を活用した高齢者にも使い易いAIオンデマンドシステムを導入
⇒ 役場への問い合わせボタンも設置。
実際は高齢の利用者は、7,8割は電話予約
- 住民ドライバー19名、利用者は朝・夕を中心に1日100人以上



端末が大きくて高齢者が操作しやすい端末

5

中山間地域における交通体系再構築の事例②

交通サービスのほかに、地域助け合い、施設管理、介護など事業を複合的に行うことにより、交通サービスの経営安定化や地域の活性化が図られるケースもある。

【鳥取市】 NPO法人さじ未来による事業の複合化

- 【運行主体】 特定非営利活動法人さじ未来
- 【運転手】 6名
- 【使用車両】 10人乗りバン2台
- 【運行開始】 R3.10.1〜
- 【運行形態】 (火) (木) は定時運行
(月) (水) (金) 及び土日祝日は予約運行
- 【運行範囲】 佐治町柝原（とちわら）〜JR用瀬駅
※定時運行の範囲は「市有償運送」「日ノ丸減便分」
※予約運行の範囲は「佐治町一円及び用瀬駅周辺」
- 【運賃】 中学生以上200円、小学生・障がい者100円
幼児無料

- 令和5年台風7号では、日ノ丸佐治線運休期間中、デマンド便を拡充し、地元小中学生の通学を支えたほか、買い物環境の確保にも寄与（トスク閉店に伴い、10月以降は当面の間1日1往復、Sスマート河原店まで延伸）



事業内容	地域助け合い事業
	雪かき支援
	荷物運搬支援
	墓地管理支援
	...
	ふれあいサロン事業
	地域内交通事業
	佐治ふれあい広場管理事業
	まちづくり協議会事業
	佐治町コミュニティ管理事業
放課後児童クラブさじっ子事業	